

思いは同じ

校 長 武井 正明



一夜明け、卓球男子個人戦。私は会場責任者として吉田総合体育館に詰めた。

団体戦で危なげなく1位で長岡に駒を進めたメンバーが、今度は個人戦で鎬を削る。次のステージへの切符は17枚。痺れる戦いが展開された。

着々と勝ち上がった3人が当確、そして4人目をねらう2年の彼に注目が集まった。

卓球が好きでたまらない、プレーできる喜びが体中から伝わってくる。彼の様子だけを見ていれば勝ったのか負けたのかわからない。とにかく表情豊かに緊張の舞台さえ、満喫している。その魅力的な姿に引き寄せられてしまった。結果は惜敗だったが「あしたの彼」をこれからも追い掛けていきたい。

決勝は同校対決となった。2年の彼は去年の自分と1年の彼が重なって見えたのではないだろうか。私としてはどちらにも勝ってほし都合のいい願いしか浮かばなかった。

今対決、切れ味鋭く安定感の光る1年生が見事優勝を勝ち取った。敗れた彼の眼には光るものがあつた。ここからが本当のスタートかもしれない。まだまだ自分との闘いは続く。自分の課題を冷静に分析して次なる戦いに挑め!!

その夜は「Niigata Champions League2025」の懇親会に参加した。

この大会は春の全国大会で優勝、来月北信越大会で吉中が対戦する星稜中学を始め、名だたる強豪校を招いて行われているもので、新潟県選抜チーム杉田浩監督以下、若手も含めた県中学校の指導者たちの熱意によって実現したものである。

私は会場となった見附市民として、ずっと野球部顧問をさせていただいた者として、本大会の会長を仰せつかり、ありがたく、身に余る光栄を感じている。

会では、山梨県富士学苑中の指導者の皆様や、富山県砺波出町中の若手顧問の先生と同じテーブルでお話をさせていただいた。

13年前の秋、魚津大会に参加して、新採用の副顧問とともに懇親会に参加して、俺たちと同じような人たちがここにもいたな、日本は広いな、としみじみ話したことを思い出した。

あらためて思う。狭いようで広い日本で、志はひとつ。皆野球が好き、子どもが好きなんだな、と。



そして今日は、歴史深い第51回県央少年少女剣道大会。久々に公式戦の剣道部の躍動する姿をこれから取材だ。

思いは同じ。君たちが生き生きと、真剣に向かっていくその眼が見たい!!